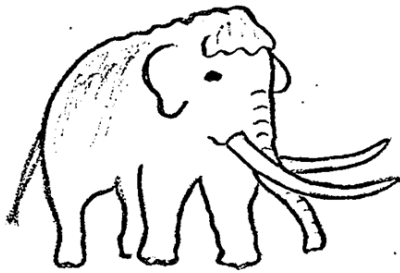


2025年8月

考古 — No. 3 1

けんぱくものしりシート

はないずみ かなもり いせき い もの 花泉 (金森) 遺跡の生き物



わしはむかしむかし、岩手県のずっと南のはしっこにある一関市花泉町でくらしていたナウマンゾウじゃ。今日は、わしが生きていたころのふるさと花泉で、いっしょにくらしていた仲間たちの話

をしてあげよう。わたちが生きていた2万年以上も昔は、地球全体が今よりずっと寒い氷河時代で、花泉のあたりにも、寒い地方や高山に生えているマツやモミの仲間の林が広がっておった。そして、ウシやオオツノジカ、

ヘラジカのような日本列島では絶滅してしまった生き物たちが暮らす、大自然の営みがあった

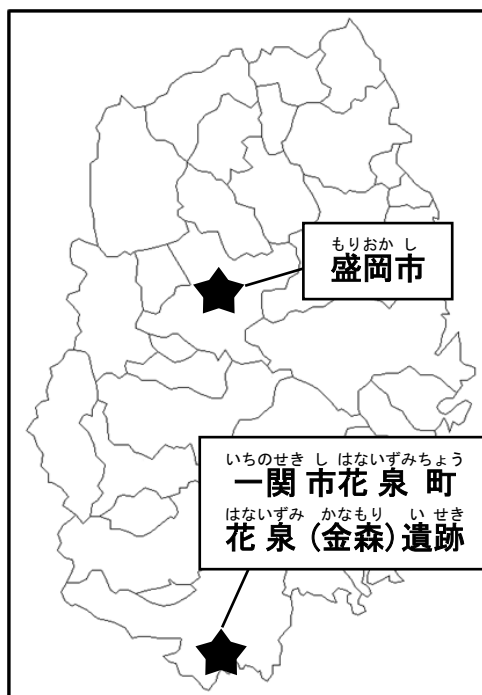


んじゃ。どうしてそんな昔の花泉のようすがわかるのかって？ 花泉にはちゃんと証拠が残っているからじゃ。それが、一関市花泉町金森地区の花泉 (金森) 遺跡じゃ。この遺跡からは、そのころの動物や植物の化石がたくさん見つかっておるんじゃ。なかでも一番多かったのはウシの骨じゃ。バラバラ



ラになった何頭分ものウシの骨が1,000点をはるかに超える数で見つかっておる。これを復元したのが左の写真のハナイズミモリウシの全身骨格じゃ。花泉遺跡といたら、なんといってもこのハナイズミモリウシなんじゃよ。

ところで、発掘されたたくさんの骨の化石の中からは、先がとてもとがったものや何かをはめこんだようなくぼみを持つものも見つかった(ものしりシート考古No.15『金森遺跡の骨器』参照)。これを当時の研究者たちは、肉を食べたあとの骨に手を加えて、何かの道具として利用したと考えていたんじゃない。わしらも、人が作った道具“骨器”として、長い間紹介してきた。ところが、その骨器といわれてきた化石



骨器と考えられてきた化石

石を注意深

く観察し、大きな動物の骨を使って何度も実験を繰り返したところ、これらは人がわざわざ作ったものではなく、自然にできたのではないかという新説が最近になって発表されたんじゃない!

このころの花泉に人々のくらしはあった

のか? どんなにいろんな証拠があっても、昔のことはすべてタイムマシンがなければ決して本当のことはわからない。じゃが研究者たちは、今、手元にあるその証拠をもとに、できるだけ答えに近づこうと日々努力を続けているんじゃないよ。

引用・参考 岩手県立博物館 (編) (1998) 『岩手県立博物館第42回企画展 野牛とその時代—旧石器時代のいわて—』岩手県文化振興事業団 / 米田 寛 (2025) 「花泉(金森)遺跡出土動物骨化石中の人類遺物とされた資料」岩手県立博物館研究報告 42: 1-10

- 「けんぱくものしりシート」の内容は発行当時のものです。
- 「けんぱくものしりシート」は解説員が執筆しております。



岩手県立博物館

〒020-0102 岩手県盛岡市上田字松屋敷34
Tel. 019-661-2831 Fax. 019-665-1214

岩手県立博物館

検索

HPIにてバックナンバー公開中!